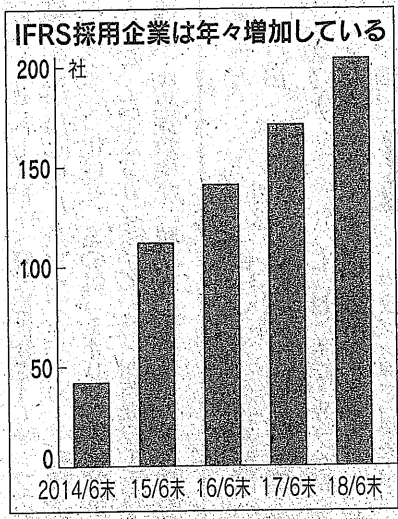


7/16

国際会計基準 200社超え

大企業多く 海外M&Aに利点



会計ルールを日本基準などから国際会計基準(IFRS)に変更する企業が増えている。今後の変更予定を含め6月末時点で204社と1年前より2割増えた。東京証券取引所の上場企業の6%で、大企業の採用が多いため株式の時価総額はほぼ3分の1を占め

る。M&A(合併・買収)後の会計処理に利点があるとして、M&Aで世界市場を開拓する企業がIFRSに移行している。2018年度はNTTグループや三菱重工業、京セラなどが新たにIFRSを適用する。約7兆円の大型買収をする武田薬品工業や日本電産、ソ

フトバンクグループといったM&Aに積極的な企業は、すでにIFRSに移行している。日本取引所グループによると日本基準を採用する企業は3379社でIFRSの採用企業は2番目に多い。米国会計基準を採用するのはトヨタ自動車など11社だった。M&Aを実施すると、買収価格と買収した企業の純資産の差である「のれん代」が発生する。日本基準ではのれん代を費用として毎年償却するがIFRSでは定期償却しない。のれん代が膨ら

んでもIFRSなら会計上の利益が減りにくい。日本でIFRSの任意適用が始まったのは10年3月期からだ。今では欧州やアジアなど120を超える国・地域で使われ、世界標準の会計基準になりつつある。IFRSはグローバル企業にとって利点が多い。海外で資金調達する際にはIFRSの方が投資家に自社の業績を説明しやすくなる。東京株式市場で存在感の高い外国人投資家にとってもIFRSの採用企業の方が財務諸表を理解しやすい。

る。M&A(合併・買収)後の会計処理に利点があるとして、M&Aで世界市場を開拓する企業がIFRSに移行している。2018年度はNTTグループや三菱重工業、京セラなどが新たにIFRSを適用する。約7兆円の大型買収をする武田薬品工業や日本電産、ソフトバンクグループといったM&Aに積極的な企業は、すでにIFRSに移行している。日本取引所グループによると日本基準を採用する企業は3379社でIFRSの採用企業は2番目に多い。米国会計基準を採用するのはトヨタ自動車など11社だった。M&Aを実施すると、買収価格と買収した企業の純資産の差である「のれん代」が発生する。日本基準ではのれん代を費用として毎年償却するがIFRSでは定期償却しない。のれん代が膨らんでもIFRSなら会計上の利益が減りにくい。日本でIFRSの任意適用が始まったのは10年3月期からだ。今では欧州やアジアなど120を超える国・地域で使われ、世界標準の会計基準になりつつある。IFRSはグローバル企業にとって利点が多い。海外で資金調達する際にはIFRSの方が投資家に自社の業績を説明しやすくなる。東京株式市場で存在感の高い外国人投資家にとってもIFRSの採用企業の方が財務諸表を理解しやすい。